

「流れ学第二」試験対策委員会標準表記法

ossan-arrow

2015 年 5 月 16 日

1 文章

1.1 文体

文体は常体を用いる。

1.2 句読点

文書において、読点は半角カンマ、句点は半角ピリオドを用いる。句読点の後には、それぞれ 2 分アキを挿入する。

1.3 ハイフン・ダッシュ・マイナス記号

一単語を複数行に分けて書くとき、英単語中に表れるとき、電話番号・住所・型番等の数字を区切って表記するときにはハイフンを用いる。

区間・範囲を表すときには en ダッシュを用いる。

em ダッシュは文書中では使用しない。

時間の経過を表すときや、説明・副題などを対で囲んで表すときには倍角ダッシュを用いる。ただし、表示には `okumacro.sty` で定義されたものを使用する事とする。^{*1}

1.4 脚注

単語や文に脚注を付ける場合、単語の場合はその単語の直後、文の場合はピリオドの直後に脚注記号を付す。

2 数式

2.1 句読点

数式は概ね一つの文として扱う。つまり、最後には句読点が付き物である。複数の数式を並べて書くときには、最後の数式以外にカンマを、最後の数式にピリオドを打つ。その後に文が続く場合には句読点は必要無い。文の後に数式が続き、かつその内容が連続している場合には、文の最後に全角コロンを打つ。

2.2 ベクトル

ベクトルを文字で表記するときには、`\bm` コマンドを使用する。

^{*1} ターミナルで『`texdoc okumacro`』と入力すると、マニュアルを参照することができる。他のパッケージについても同様。